

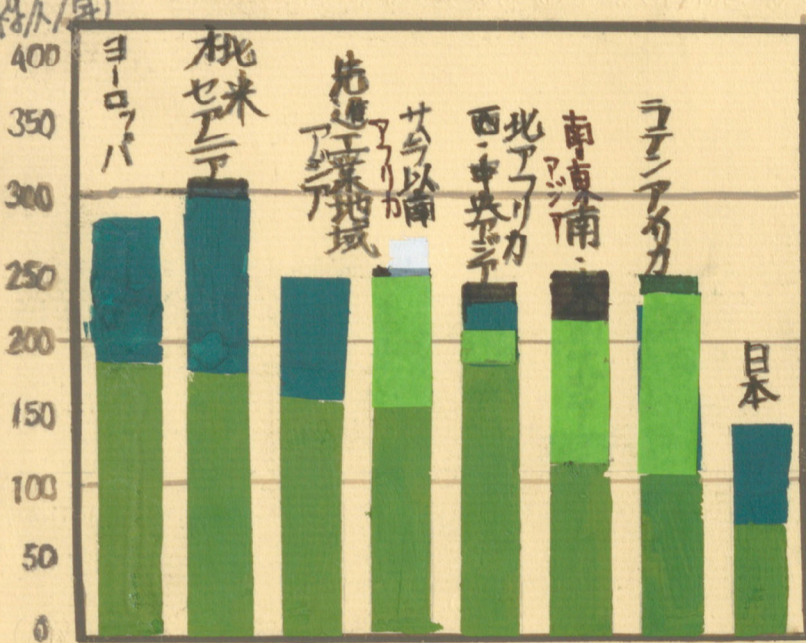
つなげよう命 ~減らせ食品ロス~



課題設定の理由

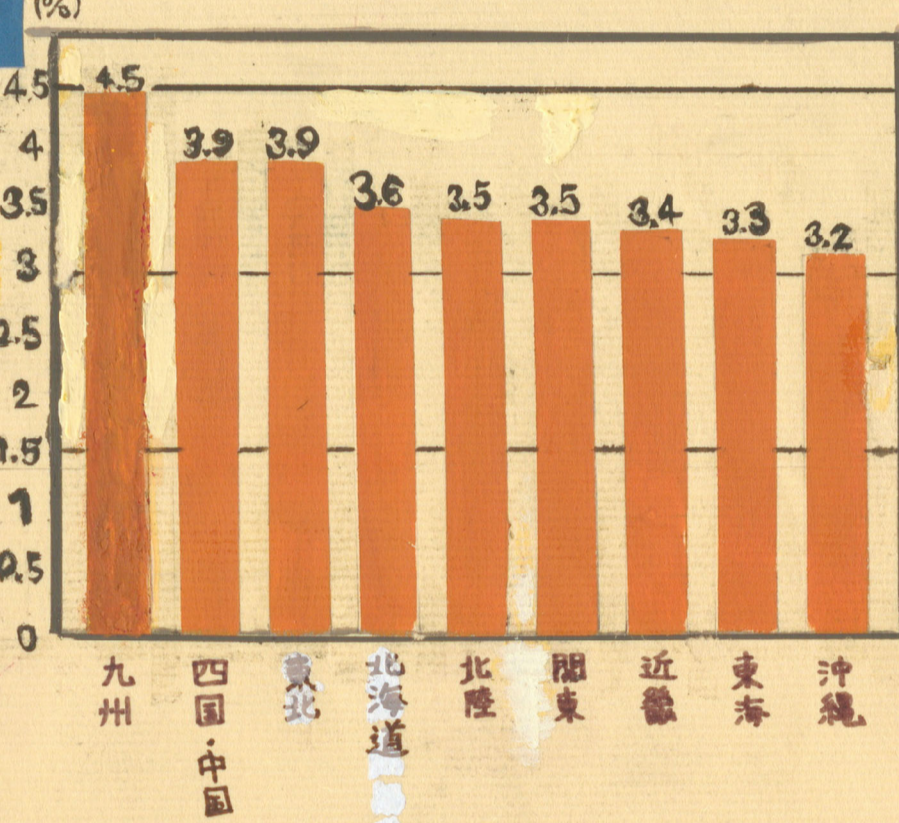
先日校内で行われたマリー・ルイズさんによる「自分が生きる~つなげる命~」についての話を聞き、少ない栄養しか取れていない子どもたちが多くいること、その中で私たちはもっと工夫し、対策を取っていかねばならないことに気づきました。そこで、「食品ロス」を減らすことが飢餓の問題への対策をとることにつながっていくのではないかと私たちは考え、「食品ロス」について調べることになりました。

【各地域と日本における一人当たりの食品ロス】

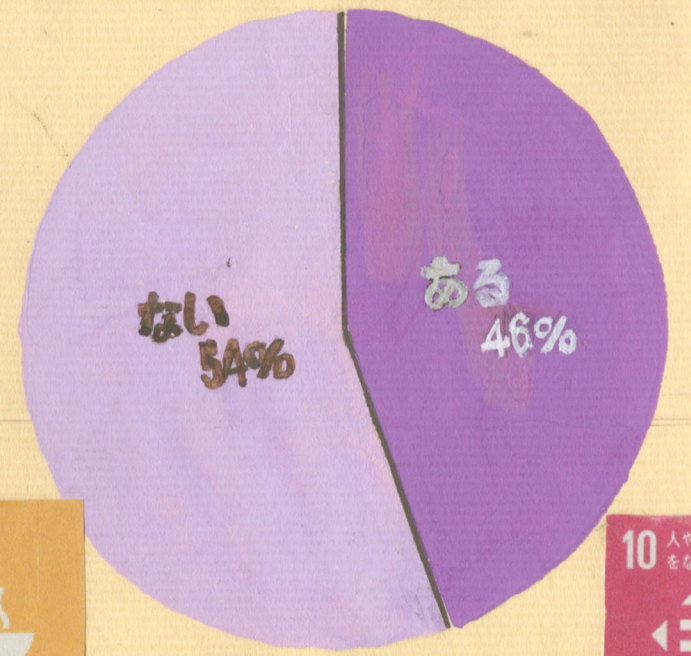


世界の国々では、まだ食べられるのに食べられずに捨てられてしまう食品がたくさんあります。これを食品ロスといいます。

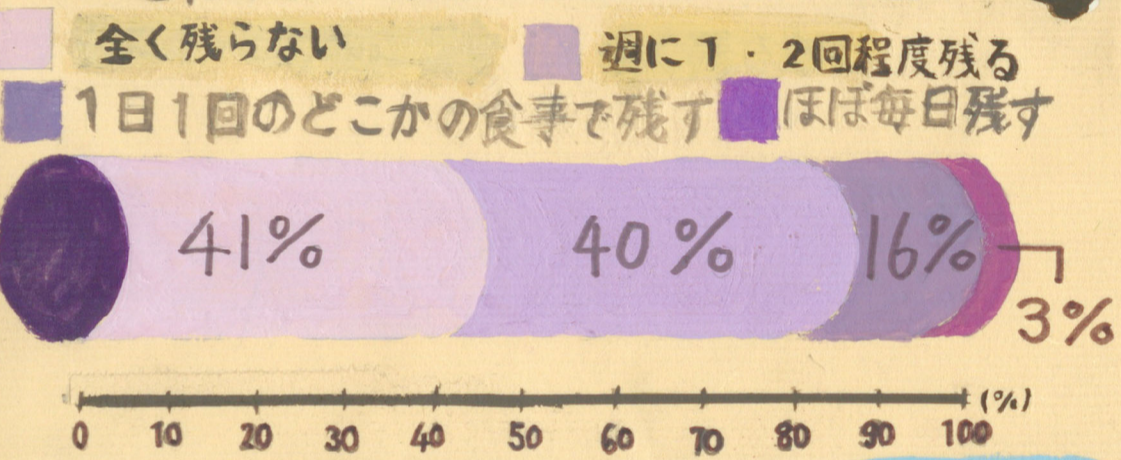
【2009年度地域別の食品ロス率】



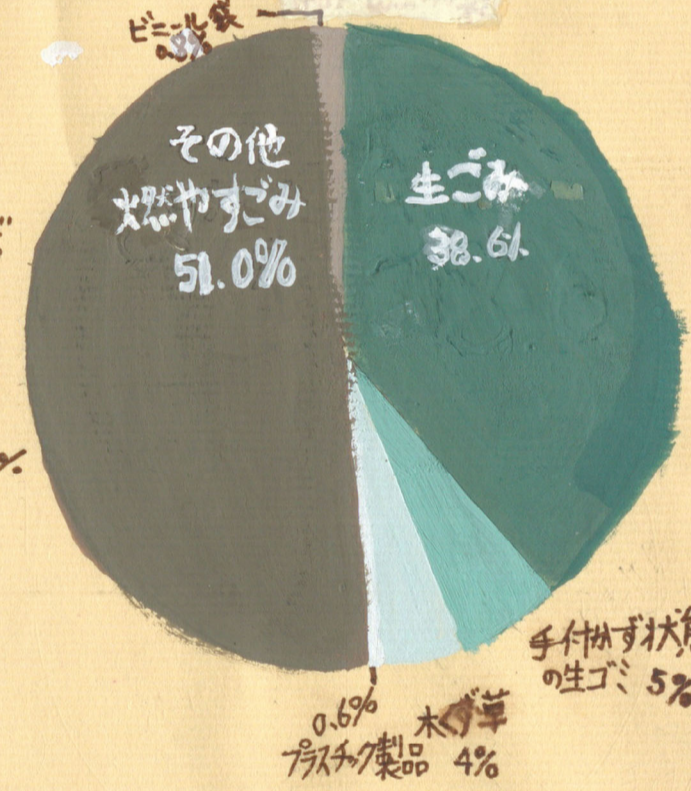
【無駄な食品が家庭にあるか】



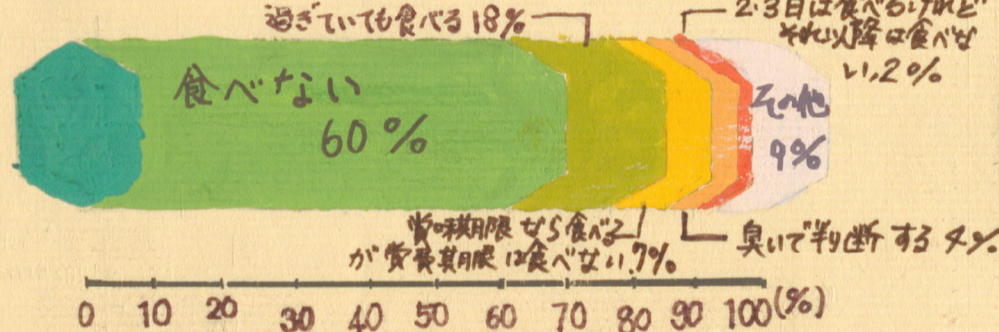
【家庭内の毎日の食事でどれくらいの頻度で残すか】



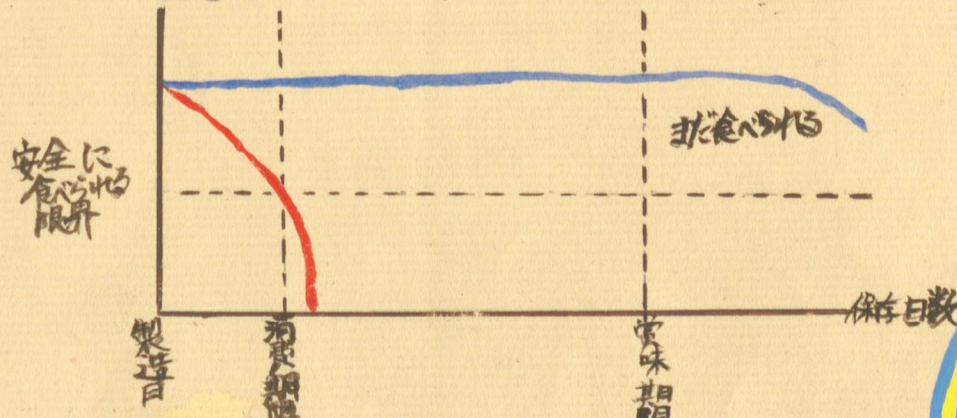
【熊本市の家庭から出る燃えるごみの内訳】



【賞味期限や消費期限が過ぎた食品はどのようにしているか】

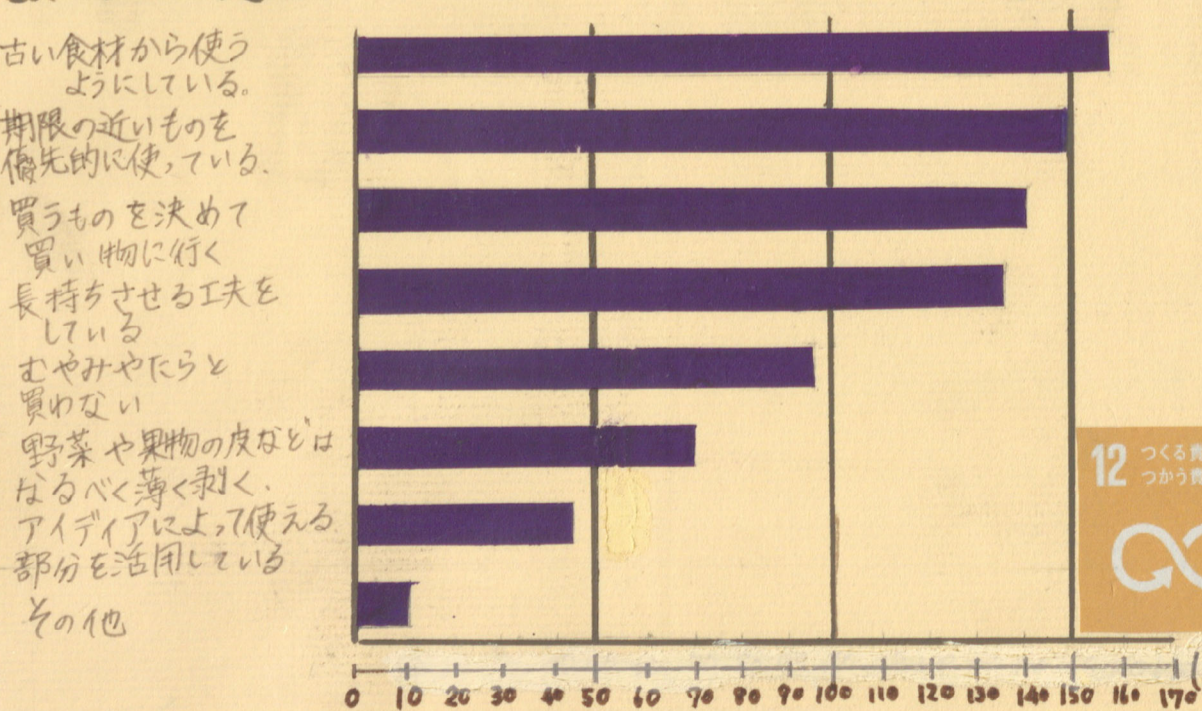


【賞味期限と消費期限のイメージ】

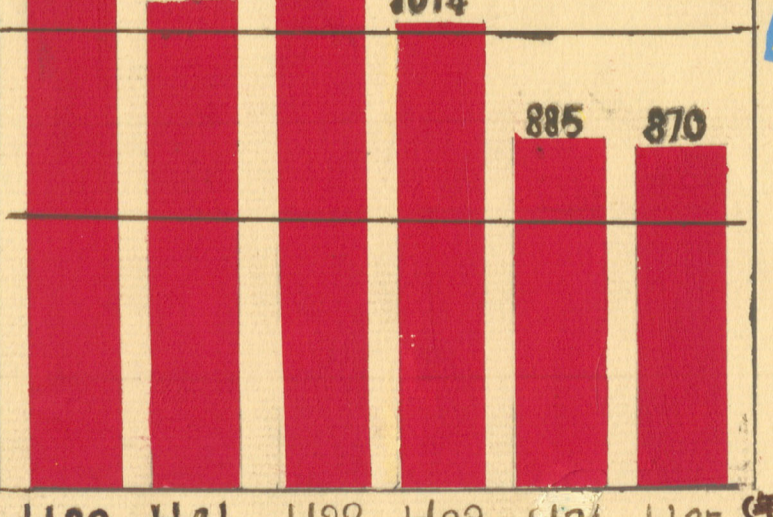


日本は、まだ食品ロスは多いですが一番多かったH20年度に比べてとても減ってきています。私たち北部中学校では一年生全員にアンケートをとり、家庭での食品ロスの現状について調べました。すると、人数を見る限りロス量は少なかったですが、やはり食品ロスが発生していることが分かりました。

【家庭内で食品ロスの対策として心掛けていること】

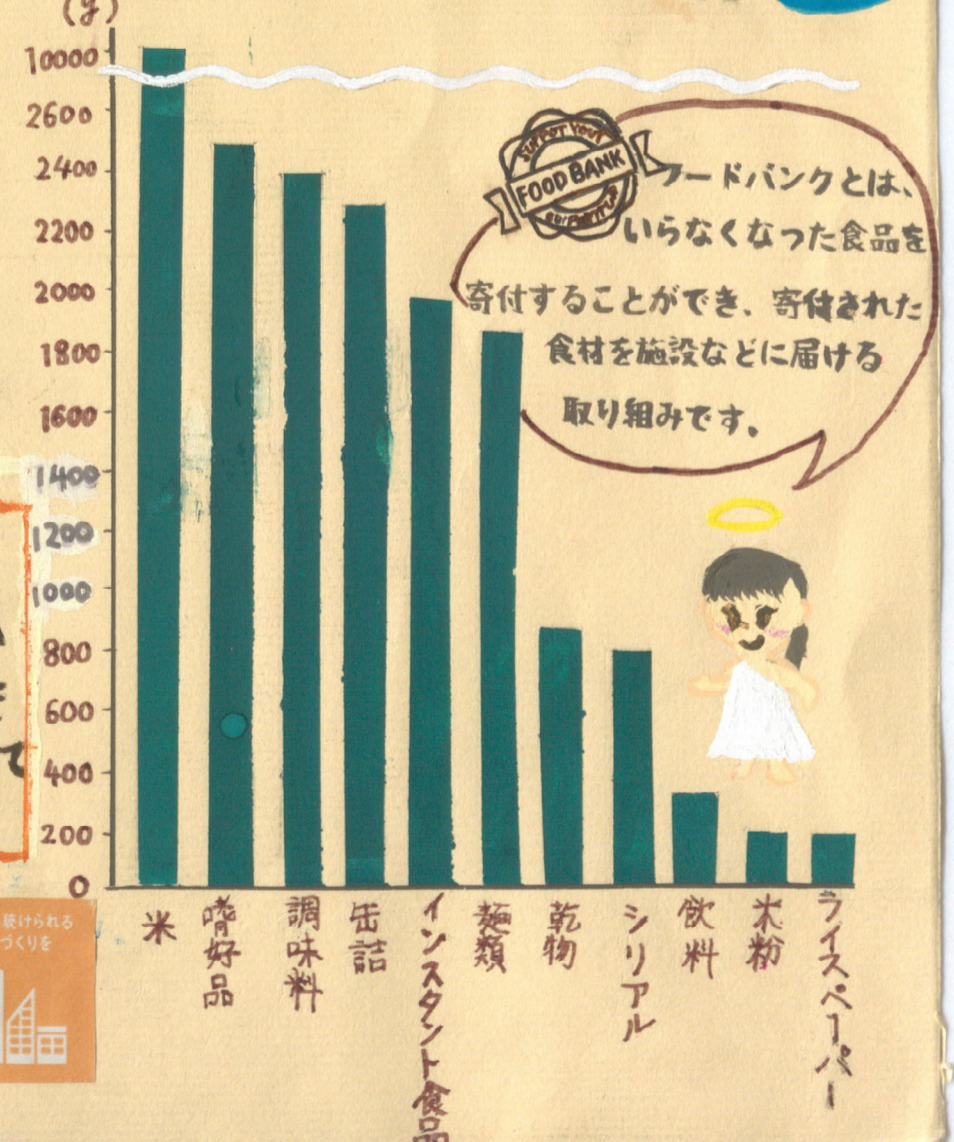


【賞味期限と消費期限のイメージ】



日本は、まだ食品ロスは多いですが一番多かったH20年度に比べてとても減ってきています。

【フードバンクの実施結果】



考察

私たちは今回の調査を通して、以前に比べ、食品ロスは減少してきていますが、まだまだ改善が必要だと感じます。また、そのためには国や地域などの一部だけが動くのではなく、自ら、身近な場所、色々な場面で意識し行動していくことが大切だと思います。実際、世界では貧しく十分な栄養を取ることができていない人々が多くいます。そのような人々のためにも、私たちは古い食材から使うようにする、長持ちさせる工夫をするなど、ちょっとした取り組みの継続で世界を変えることができると思います。さらに意識を高めて実行していきたいです。

出典

FAO・農林水産省 日本経済新聞 平成30年度 7月3日 熊本市立北部中学校1年193名

